



にっほん文楽

Nippon Bunraku

2015-2019

index

ごあいさつ 一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト理事長 横尾紀彦	03
檜舞台を運び、文楽をPR 総合プロデューサー：中村雅之	04
につぼん文楽 in 六本木ヒルズ	06
につぼん文楽 in 難波宮	18
につぼん文楽 in 浅草観音	20
につぼん文楽 in 伊勢神宮	34
につぼん文楽 in 上野の杜	48
につぼん文楽 in 熊本城	64
につぼん文楽 in 明治神宮	78
につぼん文楽 in 万博記念公園	92

ごあいさつ

一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト理事長 横尾紀彦

ユネスコの「世界無形文化遺産」にも登録され、世界に誇るべき「日本のタカラ」である人形浄瑠璃・文楽を広くアピールするため、日本財団の助成により2015年に「につぼん文楽プロジェクト」が発足いたしました。

江戸時代、人形浄瑠璃は、庶民の娯楽として飲んだり食べたりしながら見る、といった楽しみ方もありました。しかし現在では、芸術的価値の高まりと共に、劇場で「鑑賞」という画一的な楽しみ方だけになってしまいました。「につぼん文楽プロジェクト」では、歴史を踏まえながら、新たなプロデュース手法により、再び文楽の世界に「娯楽」としての楽しみ方をよみがえらせようと考え、これによって、これまで文楽を見たことがなかった方々にも注目してもらえるような公演を目指しました。

東京・六本木に始まり、全国各地を回り開催しました。その結果、屋外であるが故に天候に左右され、中止せざるを得ないこともありましたが、若い方を含め、初めて公演を見た方々より好意的な反響が多く寄せられ、主催者として非常に勇気づけられた思いでした。

本公演に当たり、ご出演頂いた文楽技芸員の皆さまをはじめ関係者の方々に衷心より御礼申し上げます。

このプロジェクトが、文楽、さらには日本文化の価値を再認識する一助になれば幸いです。

文楽に、娯楽としての楽しみ — 檜舞台を運び、各地で特色ある公演

「にっぽん文楽」総合プロデューサー 中村雅之

当時の橋下徹大阪市長の発言に端を発した文楽を巡る問題が、全国的な話題になっていた2013年後半。日本財団から「何か、文楽の価値を広く知ってもらえるような、これまでに無い企画を考えて貰えないか」という依頼を受けました。

文楽は、生まれてから400年ほどの間に、世界の人形劇の中でも、飛び抜けて高い芸術性を持つようになりました。それは、もちろん素晴らしい事ではありますが、一方で、その為に娯楽として気軽に楽しめるものでは無くなってしまいました。

そこで、提案したのが、ゆっくりと「飲みながら食べながら」、娯楽として楽しんで貰おう、というコンセプトでした。しかし、現代の劇場の中では、「飲みながら食べながら」は、難しくなっています。そこで、組み立て式の舞台を造り、公演を打とうと考えたのです。そうすれば、全国を回る事も出来ます。

文楽は「日本のタカラ」、そして日本財団に資金を提供していただいた事から、このプロジェクトを「にっぽん文楽」と名付けました。

設計は、伝統建築に詳しい田野倉徹也さんに依頼しました。田野倉さんには、材料・技術の両面において、伝統的で最高の舞台にして欲しい、と要望を出しました。作業に携わった宮大工・職人の人たちの努力もあり、申し分の無い舞台が出来上がりました。客席は、舞台との釣り合いや脇に飲み物・食べ物を置けるようにと考え、檜の縁台にしました。

舞台と客席をぐるりと囲む幔幕は、浅草の老舗・宮本卯之助商店に調製してもらいました。木綿に、本藍で、「にっぽん文楽」の「に」の一文字が入った帆掛け船の紋が染め抜かれています。船に縁が深い日本財団に因んだのと同様に、文楽が未来へ向かって順調に進むように、という願いも込めました。

初回は2014年3月、現代的空間である東京・六本木ヒルズのヒルズアリーナ。次は2015年10月、文楽の発祥の地である大阪の難波宮跡公園で開催しました。

2016年10月は、「興行の聖地」である浅草の浅草寺境内。初日の前日には、江戸情緒あふれる木遣りを先頭に、人形と一緒に技芸員らが観光客で賑わう仲見世を練り歩きました。文楽としては、史上初めての「お練り」でした。

2017年3月は、伊勢神宮外宮前の駐車場に舞台を設置。聴覚障がい者向けに「文字情報」、視覚障がい者向けに「イヤホンガイド」を用意するなど、「バリアフリー文楽」として開催しました。前日には、内宮前の「おはらい町」で、伊勢音頭を先頭に、賑やかに「お練り」を行いました。

2017年10月は上野公園。東京国立博物館を背にして、大通りに舞台を設置。公演の間には、周辺で、東京藝術大学の協力を得て、軽快な音楽に合わせ、巨大な人形がパフォーマンスを繰り広げました。

2018年3月は、震災復興支援として熊本城の二の丸広場で開催。仮設住宅などに住む被災者を無料招待しました。城を築いた加藤清正の忠義を描いた「八陣守護城 浪花入江の段」が演じられたほか、「面売り」では、全国的な人気を呼ぶ県のキャラクター「くまモン」のお面が登場し、会場を沸かせました。初日の前日には、市のキャラクター「ひごまる」も参加して、繁華街の下通りアーケードで「お練り」が行われました。

2019年3月の公演では、原宿駅を出てすぐの明治神宮・大鳥居前の広場に舞台が設置されました。周囲に幔幕を回さずオープンにし、後方からは無料で立ち見が出来るようにしました。初日の前日には、若者で溢れかえる原宿・竹下通りで、「お練り」を行いました。竹下通りとしては、史上初めて「お練り」でした。

「にっぽん文楽」の最終公演は、「1970年大阪万博50周年記念」として、2020年3月、大阪府吹田市にある「万博記念公園」に舞台を設置し、芝生に座りピクニック気分で見ることが出来る「ピクニック文楽」として開催する予定でした。しかし、残念ながら「新型コロナウイルス」感染拡大のため中止としました。

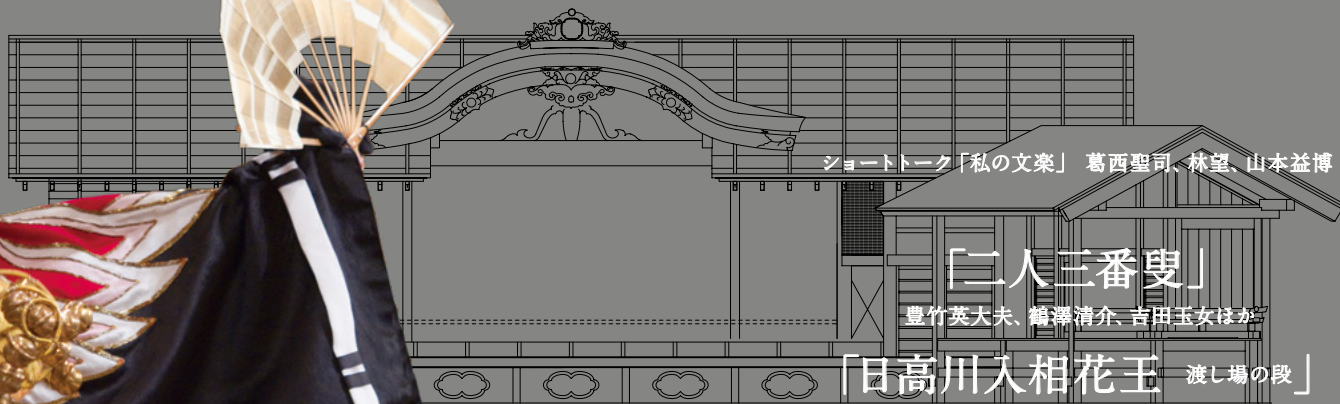
2015 Roppongi.



にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 六本木ヒルズ



ショートトーク「私の文楽」 葛西聖司、林望、山本益博

「二人三番叟」

豊竹英大夫、鶴澤清介、吉田玉女ほか

「日高川入相花王 渡し場の段」

竹本三輪大夫、竹澤團七、豊松清十郎ほか

2015年3月19日(木)～22日(日)

[昼の部] 開場11:00 開演12:00 終演予定13:30

[夜の部] 開場17:30 開演18:30 終演予定20:00

会場:六本木ヒルズアリーナ











2015 Osaka

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 難波宮

「二人三番叟」

豊竹睦大夫、鶴澤清旭、吉田玉男ほか

「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」

竹本津駒大夫、鶴澤藤蔵、桐竹勘十郎ほか

2015年10月17日(土)～20日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演14:00

[夜の部] 開場16:30 開演18:30

会場: 難波宮跡公園

写真: 渡邊肇

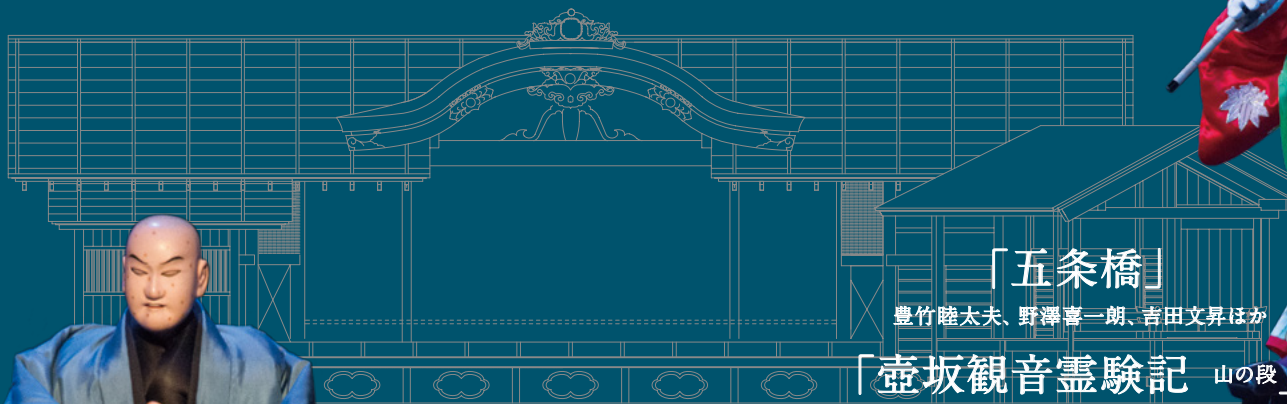
2016 ASAKUSA



にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 浅草観音



「五条橋」

豊竹陸太夫、野澤喜一朗、吉田文昇ほか

「壺坂観音霊験記 山の段」

豊竹靖太夫、豊澤富助、吉田和生、吉田玉男ほか

2016年10月15日(土)～18日(火)

[昼の部] 開場11:30 開演12:30

[夜の部] 開場17:00 開演18:00

会場：浅草・浅草寺境内

写真：青木信二













2017 Ise-jingu



～特別奉納公演～

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 伊勢神宮

「二人三番叟」

豊竹英太夫、鶴澤清介、吉田勘市ほか

「義経千本桜 道行初音旅」

竹本文字久太夫、鶴澤藤蔵、桐竹勘十郎ほか

2017年3月11日(土)～14日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演13:00

[夜の部 (11日・12日)] 開場15:30 開演16:30

[夜の部 (13日・14日)] 開場17:30 開演18:30

会場：伊勢神宮外宮特設舞台

